

## ベース油と 苛性ソーダ水溶液の準備 ……



**A** ベース油を準備する

キャノーラ油 (500g) を耐熱容器に入れて計量します。

応用

使用する油によって石けんの質感をかえることができます。数種類の油を使う場合やラードなどの固形の脂類を使う場合は、一度温め均一になるようにしっかりと混ぜ合わせます。



**B** 苛性ソーダ水溶液を準備する

ゴーグルをかけ、別の耐熱容器に水 (170g) を入れます。その中に計量された苛性ソーダ (63g) を少しずつ入れ、注意して混ぜます。この際に水溶液は非常に熱くなるので、混ぜ終えた後、水を張ったボウルに容器ごと浸けて40°C前後まで冷まします。

注意

『水の中に苛性ソーダを入れる』ことを順守して下さい。苛性ソーダを入れた容器に水を入れると危険です。また、苛性ソーダは水と反応すると60～80°Cの高温になり、蒸気を放出します。取り扱いには十分気を付け、蒸気を吸い込まないように換気の良い場所で作業を行なってください。

## ベース油と苛性ソーダ水溶液の 混合物を作る ……



**1** 混合物を作る

40度前後に温めた **A** の油に、**B** の苛性ソーダ水溶液を加え、その混合物をスプーンで混ぜます。混ぜ始めて約5分で混合物の質感が変化し始めます (環境により異なる場合があります)。そのまま15分ほどスプーンで混ぜた後、ラップをして1時間ほど休ませます。

応用

ブレンダーとスプーンを使い交互に混ぜると、より均一に仕上がります。ただしブレンダーをかけ過ぎると、早い段階で生地が固まり過ぎてしまうので注意。



**2** 休ませている間に油が分離してきたら、再び混ぜます。“混ぜる” “ラップをかけて休ませる” を繰り返すと、生地の表面にしっかりとした太い線が描けるくらい固まってきます。その位の固さになったら、次のステップの型入れに進みます。

応用

色みや香りを加えたい場合は、混合物の表面に線を描きうっすらと跡が残るようになったのを目安に、使いたい色素や香料を加えます。その際はスプーンなどでよく混ぜます。

